

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第5720719号
(P5720719)

(45) 発行日 平成27年5月20日(2015. 5. 20)

(24) 登録日 平成27年4月3日(2015. 4. 3)

(51) Int.Cl.

F 1

B 6 5 D 33/00 (2006.01)

B 6 5 D 33/00

Z

請求項の数 1 (全 13 頁)

(21) 出願番号	特願2013-90153 (P2013-90153)	(73) 特許権者	313005282
(22) 出願日	平成25年4月23日(2013. 4. 23)		東洋製罐株式会社
(62) 分割の表示	特願2009-2781 (P2009-2781)		東京都品川区東五反田2丁目18番1号
の分割		(74) 代理人	100075133
原出願日	平成21年1月8日(2009. 1. 8)		弁理士 川井 治男
(65) 公開番号	特開2013-139302 (P2013-139302A)	(72) 発明者	相川 孝之
(43) 公開日	平成25年7月18日(2013. 7. 18)		神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70
審査請求日	平成25年4月23日(2013. 4. 23)		東洋製罐株式会社開発本部内
前置審査		(72) 発明者	吉弘 憲司
			神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70
			東洋製罐株式会社開発本部内
		(72) 発明者	小沢 和美
			神奈川県横浜市鶴見区矢向1-1-70
			東洋製罐株式会社開発本部内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 パウチホルダー

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

パウチ容器の注出ノズル部を囲んで収容可能なノズル保持部と、前記パウチ容器の注出ノズル部と連通して前記パウチ容器の注出ノズル部からの注出流れを案内するアダプターを有し、前記ノズル保持部に前記パウチ容器の注出ノズル部を解除可能に係止する係止部とを有し、前記ノズル保持部は前記パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部を協働して挟持可能な挟持面を持つ2つの保持片を有し、前記挟持面の間で前記パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部の少なくとも一部が内側に摺動可能に挟持されるようにし、

前記アダプターは、同心状に位置する装着部内筒と装着部外筒を有する装着部とを有し、前記装着部内筒は軸方向に貫通する通液孔を有していて、前記装着部外筒は前記ノズル保持部の2つの保持片の外側に嵌合し、前記装着部内筒は前記ノズル保持部に保持された前記パウチ容器の注出ノズル部に挿入可能に構成され、

前記装着部内筒は先端に向かって次第に先細状となる形状をなし、

前記両保持片は前記パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部の少なくとも一部分が前記両保持片の挟持面の外方に出る状態で挟持するように構成され、前記装着部外筒は、前記パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部を内方へ押圧するように構成されていることを特徴とするパウチホルダー。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は液体内容物を充填するパウチホルダーに関するものである。

【背景技術】

【0002】

従来、洗剤などの液体内容物は金属缶、ガラスびん、プラスチックのボトル等の容器に詰められて製造され、販売され、かつ使用されて来たが、近年そのような容器の再利用を図るために液体内容物（以下「内容液」と称する）の詰め替え利用が行なわれて来ている。

この詰め替え用の内容液を充填する容器としては、環境対応、廃棄物削減に優れたパウチ容器の利用が広まっている。

【0003】

パウチ容器は可撓性のあるフィルム材を重ねて、サイドシールし、重ねたフィルム材の間に内容液充填用の空間を形成したもので、内容液を注出する時の注出口としてはスパウトを設けたものと、フィルム材を切って注出口を形成するものとがある。

しかしながら詰め替え用大口径スパウト付きパウチは、持ち手位置が定まらない上、胴部の剛性が低く、しっかりと持てないために、注出操作が不安定になっている。またパウチに付けられた大口径スパウトは、プラスチックの使用量が多い上、パウチ破棄毎に捨てる廃棄物となっている。

【0004】

さらに詰め替え用の手間を軽減するためにパウチ容器をホルダーで保持して直接使用することも提案されている。

このようなパウチ容器をホルダーに保持させるものとしては次のようなものがある。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0005】

【特許文献1】特開2002-012236号

【特許文献2】特開2002-274564号

【特許文献3】特開2000-142730号

【特許文献4】特開2001-063737号

【特許文献5】特開平07-315395号

【特許文献6】特開2007-276811号

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0006】

特許文献1及び2はスパウト付きのパウチを硬質のスタンドや外容器で保持するものであって、スパウトが資源の問題や廃棄物の点で課題があることは前述の通りである。

【0007】

特許文献3はパウチを隅部で切って注出する形式の技術であって、パウチを硬質の周囲壁の中に立てて収容し、周囲壁を傾けて内容液を注出するもので、パウチの固定手段としては周囲壁に縦のスリットを形成して、そのスリットにパウチのサイド部を挟み込んで固定するのであるが、スリットにパウチのサイド部を挟み込む操作をするのが容易ではないし、またパウチの固定が充分ではないので、注出時にパウチを傾むけたときに、パウチの固定がはずれて、内容液がこぼれる恐れがある。

【0008】

特許文献4はパウチ上部を開口させて注出する形式の技術であって、パウチを硬質のフレームに取付けて立たせて保持し、フレームを傾むけて内容液を注出するようになっているが、パウチをフレームに固定するのにねじを使用するなど、パウチを固定する操作が必ずしも容易ではない。

【0009】

特許文献5及び6はパウチのノズル部にアダプターを挿入して、ノズル部の開口状態を保ったものであるが、パウチのサイドシール部の付け根からのリークを防ぐのが困難であ

10

20

30

40

50

る。

【0010】

このようなことから、可撓性のあるパウチをそのまま内容液の注出容器として使用することができ、パウチとしてスパウトを設ける必要がなく、したがって環境対応性、廃棄物削減性に優れたパウチを使用することができ、注出時のパウチの取扱いが容易で、パウチの流路の閉塞がなく、内容液の注出流れが円滑であり、かつ、パウチのノズル部のサイドシール部の付け根からのリークを防ぐことができるパウチホルダーを提供することを目的とするものである。

【課題を解決するための手段】

【0011】

10

この目的に対応してこの発明のパウチホルダーは、パウチ容器の注出ノズル部を囲んで収容可能なノズル保持部と、前記パウチ容器の注出ノズル部と連通して前記パウチ容器の注出ノズル部からの注出流れを案内するアダプターを有し、前記ノズル保持部に前記パウチ容器の注出ノズル部を解除可能に係止する係止部とを有し、前記ノズル保持部は前記パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部を協働して挟持可能な挟持面を持つ2つの保持片を有し、前記挟持面の間で前記パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部の少なくとも一部が内側に摺動可能に挟持されるようにし、

前記アダプターは、同心状に位置する装着部内筒と装着部外筒を有する装着部とを有し、前記装着部内筒は軸方向に貫通する通液孔を有していて、前記装着部外筒は前記ノズル保持部の2つの保持片の外側に嵌合し、前記装着部内筒は前記ノズル保持部に保持された前記パウチ容器の注出ノズル部に挿入可能に構成され、

20

前記装着部内筒は先端に向かって次第に先細状となる形状をなし、

前記両保持片は前記パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部の少なくとも一部分が前記両保持片の挟持面の外方に出る状態で挟持するように構成され、前記装着部外筒は、前記パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部を内方へ押圧するように構成されていることを特徴としている。

【発明の効果】

【0013】

このパウチホルダーでは、ノズル保持部を分割可能な構造としたのでパウチ容器の注出ノズル部の出し入れで保持が容易であり、挟持された状態でサイドシール部が横方向に摺動できるので、アダプター挿入時の荷重に耐えるとともにアダプターと注出ノズル部の密着性を高めることができる。

30

【0014】

またこのパウチホルダーでは、装着部外筒によりノズル保持部の保持片を案内しつつ装着部内筒をパウチ容器の注出ノズル部に差し込むため、アダプターの装着操作が容易である。

【0015】

またこのパウチホルダーでは、アダプターの装着部内筒が先細状になっているので、パウチ容器の注出ノズル部に差し込むのが容易であり、注出ノズル部との密着圧力を高めることができる。

40

【0016】

またこのパウチホルダーでは、ノズル保持部の挟持面がパウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部を挟んだときに、サイドシール部の外縁が挟持面からはみ出る形状、寸法としたので、そのはみ出たサイドシール部をアダプターの装着部外筒で内側に押してサイドシール部の内側基端部がアダプターの装着部内筒に密接するのを助長させ、内容液のもれをより確実に防ぐことができる。

【0017】

またこの発明のパウチホルダーでは挟持面に突出する係止用ピンを設けた場合は、これをパウチ容器のサイドシール部の係止穴に差し込むことができ、パウチ容器の注出ノズル

50

部の保持が確実になる。

【 0 0 1 8 】

またこの発明のパウチホルダーでは、パウチ容器がパウチホルダーにセットされた状態において、パウチ容器の注出ノズル部の開封用タブがパウチホルダーのノズル保持部の上端よりも上方に出ているように構成した場合は、パウチホルダーにセットした後に開封することができ、セット操作中の液こぼれなどを防止できる。またノズル保持部の上端面をタブ切り離しの案内とすることができ、開封操作が容易である。

【 0 0 1 9 】

またはこの発明のパウチホルダーでは、パウチ容器を胴部殻壁で保護するように構成した場合は、パウチ容器をあたかも剛体製の容器として扱うことができ、さらに胴部殻壁が本体殻壁と扉殻壁とからなっていて、パウチ容器を出し入れする開口を扉殻壁が開閉するのでパウチ容器のセットが容易である。

10

【 0 0 2 0 】

またこの発明のパウチホルダーでは、アダプターをノズル保持部に連結した場合は、パウチ容器の交換の際にもアダプターの取り扱いに煩わされることがなく、注出ノズル部への挿入が容易に行える。

【 0 0 2 1 】

またこの発明のパウチホルダーでは注出案内部を回転させて内容液が流通する通路を開閉するように構成した場合は、内容液の流通、断続の調整が容易である。

【 0 0 2 2 】

20

またこの発明のパウチホルダーでは、アダプターをパウチ容器の注出ノズル部に差し込んだ状態の姿勢をロックすることができるよう構成した場合は、内容液を注出する時のパウチホルダーの取扱いが安定し、また不時の内容液のこぼれを避けることができる。

【 図面の簡単な説明 】

【 0 0 2 3 】

【 図 1 】 パウチ容器を示す図で (a) は正面図、 (b) は側面図

【 図 2 】 扉殻壁を開いた状態のパウチホルダーの説明図

【 図 3 】 パウチホルダーの正面図

【 図 4 】 パウチホルダーの右側面図

30

【 図 5 】 パウチホルダーの左側面図

【 図 6 】 パウチホルダーの平面図

【 図 7 】 パウチホルダーの底面図

【 図 8 】 パウチホルダーのノズル保持部にパウチ容器の注出ノズル部をセットした状態を示す斜視説明図

【 図 9 】 内容液が注出可能な状態のパウチホルダーの斜視図

【 図 1 0 】 内容液の注出をしない状態のパウチホルダー斜視図

【 発明を実施するための形態 】

【 0 0 2 4 】

以下この発明の詳細を一実施の形態について図面を参照しつつ説明する。

40

【 実施例 1 】

【 0 0 2 5 】

図 1 において 1 はパウチ容器である。図 2 において 2 はパウチホルダーであって、パウチ容器 1 を保持するためのものである。

【 0 0 2 6 】

パウチ容器 1 はパウチホルダー 2 の胴部 3 1 の出入口 4 1 から胴部 3 1 のパウチ収容空間 4 3 内に挿入されてパウチホルダー 2 内に収納されて保持される。この保持のためには特にパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 の位置決めが重要で、パウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 はパウチホルダー 2 のノズル保持部 3 2 内に挿入されて保持される。

【 0 0 2 7 】

50

そこでまずパウチ容器 1 について説明する。

パウチ容器 1 は図 1 に示すように、可撓性のフィルム材からなる正面片 3、背面片 4 を重ね両側部にサイドシール部 5、6 が形成されるようにヒートシール等によってサイドシール部を形成し、正面片 3、背面片 4 の間に内容液充填用の空間 7 をもつパウチ胴部 9 を形成して、そこに内容液を充填する構造をなしている。

【0028】

パウチ容器 1 の底部は正面片 3、背面片 4 の下端を直接にシールしてボトムシール部 8 を形成して閉じ、または底面片 11 を差し込んでボトムシール部 8 を形成して閉じる。

【0029】

パウチ容器 1 の上部には注出ノズル部 12 と充填口 13 とが設けられ、注出ノズル部 12 の上端はトップシール部 14 が形成されて閉じられている。トップシール部 14 の直下で開封後の注出ノズル部 12 の上端となる部分に易開封線 16 が設けられている。

【0030】

注出ノズル部 12 の易開封線 16 よりも上の部分は易開封線 16 を切るときに摘むタブ 88 として機能する。

注出ノズル部 12 は両側部がサイドシール部 17、18 に閉じられてパウチ胴部 9 から上方に突出して形成され、内部にノズル孔 21 を有する。ノズル孔 21 はノズル上端 15 からノズル下端 22 に達するが、ノズル下端 22 でパウチ胴部 9 の空間 7 に連通している。サイドシール部 17、18 にはそれぞれ横長の係止穴 25 が形成される。

【0031】

ノズル孔 21 の径はノズル上端 15 からノズル下端 22 まで同じでもよいが、図 1 (a) に示すように、ノズル下端 22 からノズル上端 15 に行くにしたがって末広がり状に径が大きくなるように構成すると、後述するパウチホルダー 2 の装着部内筒 67 の差し込みが円滑になるとともに、接触面積が増してシール性がよくなる。充填口 13 の上端は空間 7 に内容液が充填された後にシールされてトップシール部 23 が形成される。

【0032】

また左サイドシール部 5 には後述するアダプターの係止部との干渉を逃げるシール後退部 24 が形成される。

【0033】

次にパウチホルダーについて説明する。

パウチホルダー 2 は図 2 に示すように、ノズル保持部 32 と、ノズル保持部 32 と一体に形成された胴部 31 と、アダプター 33 と、アダプター 33 の係止部材 34 とを有する。胴部 31 は胴部殻壁 35 とその上に設けられている掛け止め機構 44 とを有している。

胴部殻壁 35 は本体殻壁 36 と扉殻壁 37 とからなっている。

本体殻壁 36 は胴部殻壁 35 の大部分を構成する筒状の殻壁で、下端は底殻壁 38 で閉じている。筒状の本体殻壁 36 はこの実施形態ではパウチ容器 1 の形状に対応して八角筒状をなしている。また本体殻壁 36 の上端近傍の一方の側面にはパウチ容器 1 を出し入れする出入口 41 が開口している。

出入口 41 の近傍には扉殻壁 37 がヒンジ 42 を介して連結し、扉殻壁 37 はヒンジ 42 で回転して出入口 41 を開閉する。

【0034】

本体殻壁 36 と扉殻壁 37 は共働して胴部殻壁 35 を構成し、胴部殻壁 35 の内部にパウチ収容用空間 43 が形成される。

本体殻壁 36 と扉殻壁 37 との連結構造は前述のヒンジ 42 による他、スライド機構やその他の任意の連結機構を採ることができる。

【0035】

本体殻壁 36 と扉殻壁 37 とは掛け止め機構 44 によって掛け止めされる。掛け止め機構 44 は互いに掛け止まり、またその解除が可能な掛け止め片 45、46 からなっていて、掛け止め片 45 が本体殻壁 36 の上端に設けられ、掛け止め片 46 が扉殻壁 37 の上端に設けられ、扉殻壁 37 が本体殻壁 36 の出入口を閉じた状態で掛け止め片 45 と掛け止

10

20

30

40

50

め片 4 6 が係合して本体殻壁 3 6 と扉殻壁 3 7 が掛け止めされている。

【 0 0 3 6 】

ノズル保持部 3 2 は、円筒状をなし胴部 3 1 の胴部殻壁 3 5 から上方に突出して形成されているノズル保持部材 4 8 を有する。

ノズル保持部材 4 8 の内面はパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 を囲んで収容可能なノズル保持面 4 7 を有する。

ノズル保持部材 4 8 はノズル保持面 4 7 の中心線を含む断面で分割したノズル保持部材片 5 1、5 2 が合わさって協働して構成する。

それぞれのノズル保持部材片 5 1、5 2 は内面に協働して 1 個のノズル保持面 4 7 を構成する半割ノズル保持面 5 3、5 4 を有しており、またノズル保持部材片 5 1、5 2 がノズル保持部材 4 8 を構成するときに合わさる端面は後に述べるパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 のサイドシール部 1 7、1 8 を挟む挟持面 5 5、5 6 を構成する。

ノズル保持部材片 5 1 は胴部 3 1 の本体殻壁 3 6 の上端から突出し、ノズル保持部材片 5 2 は扉殻壁 3 7 の上端から突出して形成されている。

【 0 0 3 7 】

挟持面 5 5、5 6 の一方または両方から係止用ピン 5 7 が突出している。この係止用ピン 5 7 は後述するようにパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 のサイドシール部 1 7、1 8 を挟持面 5 5、5 6 が挟むときにサイドシール部 1 7、1 8 に形成されている係止穴 2 5 に挿通されて注出ノズル部 1 2 を位置決めする。

【 0 0 3 8 】

また挟持面 5 5、5 6 はパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 のサイドシール部 1 7、1 8 を挟持するときに、サイドシール部 1 7、1 8 外縁の少なくとも一部分が挟持面 5 5、5 6 から外側にはみ出る状態で挟持し、サイドシール部 1 7、1 8 が内側へ向けて押圧される動きを許容するような寸法または形状に構成されている。

【 0 0 3 9 】

またこのノズル保持部材 4 8 はパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 の上端のタブ 8 8 がノズル保持部材 4 8 の上端から露出するように注出ノズル部 1 2 を保持する寸法または形状になっている。

【 0 0 4 0 】

ノズル保持部材 4 8 には装着部 6 1 が係合可能であり、装着部 6 1 はノズル保持部 3 2 または胴部 3 1 の上端近傍を介してノズル保持部 3 2 に回動可能に取り付けられている。

【 0 0 4 1 】

図 3 から図 6 に示すように、アダプター 3 3 は装着部 6 1 とアダプター通液部 6 2 と注出案内 6 3 とを備え、リンク機構 6 4 によって回動可能に胴部殻壁 3 5 の上端部（この実施形態では掛け止め機構 4 4 近傍）に枢支されている。

【 0 0 4 2 】

装着部 6 1 は同心状に配置された装着部内筒 6 7（図 2）と装着部外筒 6 8 とを有し、装着部外筒 6 8 の上端は天板 7 1 によって装着部内筒 6 7 との間で閉じられている。

装着部外筒 6 8 はノズル保持部材 4 8 の外側に円滑に嵌合する内径をなし、かつリンク機構 6 4 のリンク 7 2 に回動可能に連結している。

【 0 0 4 3 】

装着部内筒 6 7 は先端に向かってノズル保持面 4 7 の内側に円滑に入り得る外径で次第に先細状となる形状をなしかつ軸方向に貫通する通液孔 7 4 を有する胴部 7 3 を有していて、装着部外筒 6 8 の回動によってノズル保持部材 4 8 のノズル保持面 4 7 の内側に入出する姿勢をとることができる。

胴部 7 3 の上部をなすアダプター通液部 6 2 の前方の側面には通液孔 7 4 に通じる通液口 6 9（図 4）が貫通して形成されていて胴部 7 3 の内外が連通している。

アダプター通液部 6 2 には注出案内 6 3 が回転摺動可能に嵌合している。

注出案内 6 3 は弁筒 8 1 と注出案内筒 8 2 とからなっていて、弁筒 8 1 は筒状をなしてアダプター通液部 6 2 に対して液密に摺動回動可能に嵌合している。

10

20

30

40

50

弁筒 8 1 には注出案内筒 8 2 の基部に液案内孔 8 3 が貫通形成されていて、この弁筒 8 1 は液案内孔 8 3 がアダプター通液部 6 2 の通液口 6 9 と一致して開口する位置と通液口 6 9 を閉じる位置との間に回転することができる。

【 0 0 4 4 】

弁筒 8 1 の外面には注出案内筒 8 2 が側方に突出している。これはパウチ容器 1 の内容液を外部に注出するときの注ぎ口となる部分であるが、弁筒 8 1 が回転して液案内孔 8 3 が通液口 6 9 と一致するときにパウチ容器 1 内の内容液は注出案内筒 8 2 から注出されることができる。

【 0 0 4 5 】

アダプター 3 3 は係止部材 3 4 によってノズル保持部 3 2 または胴部 3 1 を介してノズル保持部 3 2 に係止されて姿勢を保持される。係止部材 3 4 はアーム 8 5 と係止ロッド 8 6 とからなっていて、アーム 8 5 の一端がアダプター 3 3 に枢着し、他端には係止ロッド 8 6 が枢着していて係止ロッド 8 6 が胴部 3 1 の係止溝 8 7 (図 2) に嵌入することによって、アダプター 3 3 の係止が実現する。本実施形態では、アーム 8 5 に枢着された係止ロッド 8 6 の他端はアダプター 3 3 のリンク機構 6 4 (リンク 7 2) に枢着され、係止ロッド 8 6 のぐらつきを防止している。

【 0 0 4 6 】

次にこのように構成したパウチ容器 1 とパウチホルダー 2 の作用について説明する。パウチホルダー 2 の胴部 3 1 の扉殻壁 3 7 を開く。扉殻壁 3 7 を開くと、これと一体になっている掛け止め機構 4 4 の掛け止め片 4 6 及びノズル保持部材 4 8 のノズル保持部材片 5 2 も開く。扉殻壁 3 7 を開くと出入口 4 1 が開くのでここからパウチ容器 1 を胴部 3 1 に入れ、それからパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 のサイドシール部 1 7、1 8 をノズル保持部材片 5 1 の挟持面 5 5 に当接させ、かつ係止穴 2 5 に係止用ピン 5 7 を通す。

【 0 0 4 7 】

この状態で扉殻壁 3 7 を閉じて掛け止め機構 4 4 で掛け止めると胴部 3 1 が閉じてパウチ容器 1 が収容され、さらにパウチ容器 1 のサイドシール部 1 7、1 8 が挟持面 5 5 と挟持面 5 6 の間に挟み込まれる。この状態においてはパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 の易開封線 1 6 は図 8 に示すように、ノズル保持部材 4 8 の高さ h だけ上にわずかに出ており、また、サイドシール部 1 7、1 8 の外縁は幅 w だけ挟持面 5 5、5 6 の合せ目から側方にわずかに出ている。

この状態でパウチ容器 1 の注出ノズル部 1 2 の先端を閉じているタブ 8 8 を易開封線 1 6 から切って注出ノズル部 1 2 を開口させる。ノズル保持部材 4 8 の上端面を切り離しの案内とできるので開封が容易である。

【 0 0 4 8 】

次にアダプター 3 3 の装着部 6 1 をノズル保持部材 4 8 にかぶせる。これによって装着部 6 1 の装着部内筒 6 7 はノズル保持部材 4 8 に保持されている注出ノズル部 1 2 内に先端から挿入されて注出ノズル部 1 2 の内面に接する。互いに向かい合うようにテーパ状となっているので強い圧力で密着される。また装着部外筒 6 8 がノズル保持部材 4 8 の外側に嵌合するとノズル保持部材 4 8 の挟持面 5 5、5 6 の合わせ目から外側にはみ出しているサイドシール部 1 7、1 8 が内側に押されて移動しサイドシール部 1 7、1 8 の基端部内面が装着部内筒 6 7 の外面に圧接してより完全な液密状態を現出する。次に係止部材 3 4 でアダプター 3 3 を固定する。

最後に注出案内筒 8 2 を回転させて内容液の流路を開き、パウチホルダー 2 を傾ければ、内容液が注出される。

この発明は上記の実施形態に限定されず、様々な形態を取ることができる。すなわち、パウチ容器の注出ノズル部のサイドシール部に設ける係止手段は、上記実施形態では横長の係止穴で示したが、C 字状の切れ目などでもよい。また係止位置が注出ノズル部の基端部近傍であれば、真円状の係止穴としてもよいし、サイドシール部に拡張部や滑り止め加工などを設けてパウチホルダーで強固に把持するようにしてもよい。基端部近傍でサイドシール部が拘束されても、先端寄りの部分は内側へ押圧可能にできる。

10

20

30

40

50

なお、注出ノズル部のサイドシール部に係止手段を設ける主な目的は、パウチホルダーにセットする際の注出ノズル部の位置決めを良好にすることと、アダプターを挿入する際の荷重に耐えうるようにすることであり、必ずしも内容液を充填したパウチ容器の重量を支えなくてもよい。パウチ容器自体の保持は胴部殻壁によってもよいし、パウチ容器胴部のサイドシール部や充填口側のトップシール部を挟持ないし係止穴などで支えてもよい。注出ノズル部の突出方向は上向きが流路の閉塞を避ける上で好適だが、その他に斜めや横向きでもよい。

胴部殻壁はパウチ容器全体を覆わなくてもよい。胴部殻壁を有しないパウチホルダーとして、ノズル保持部にスタンド、ハンドル、吊り具などが組み合わされたもので構成してもよい。

10

胴部殻壁を構成する本体殻壁と扉殻壁の形態は、上述した本体殻壁の側面上方を扉殻壁が閉じるものに留まらず、本体殻壁と扉殻壁の大きさがほぼ等しい左右分割や、上下あるいは前後分割でもよいし、扉殻壁がノズル保持部の2つの挟持片の双方をなすように2パーツ構成とするなど、適宜の構造を採用することができる。

アダプターとノズル保持部を連結する場合、上述の回転可能な形態の他、アダプターの挿入方向へのスライド、回転と前後スライドの組み合わせでもよい。スライド動作を本体殻壁と扉殻壁の係止め機構と兼用することもできる。

アダプターは注出案内内部を用いずに直接注出口を設けてもよく、この場合は別体のキャップで閉じるようにするとよい。またポンプ（手動、電動を問わない）を装着すれば、注出の際にパウチホルダーを持ち上げて傾ける必要がなく、大型のパウチ容器も容易に利用できる。

20

アダプターの係止機構も胴部殻壁に係止するものに限らず、ノズル保持部にネジ、バヨネット、ラチェットなどでロックする、かんぬきなどのパーツで抜け止めとするなど、何でもよい。

【産業上の利用可能性】

【0049】

このように、この発明によれば可撓性のあるパウチをそのまま内容液の注出容器として使用することができ、パウチとしてスパウトを設ける必要がなく、したがって環境対応性、廃棄物削減性に優れたパウチを使用することができ、注出時のパウチの取扱いが容易で、パウチの流路の閉塞がなく、内容液の注出流れが円滑であり、かつ、パウチのノズル部のサイドシール部の付け根からのリークを防ぐことができるパウチホルダーを得ることができる。

30

【符号の説明】

【0050】

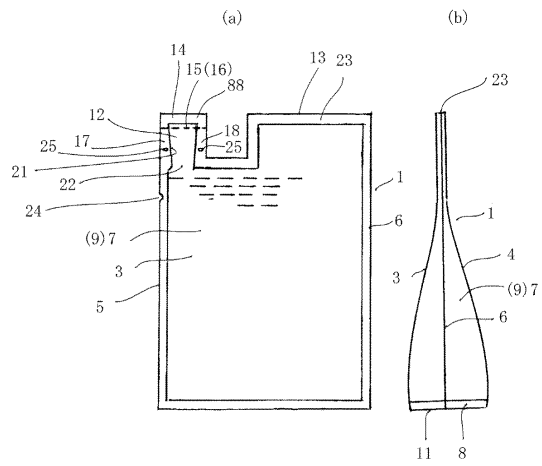
- 1 パウチ容器
- 2 パウチホルダー
- 3 正面片
- 4 背面片
- 5 サイドシール部
- 6 サイドシール部
- 7 内容液充填用の空間
- 8 ボトムシール部
- 9 パウチ胴部
- 11 底面片
- 12 注出ノズル部
- 13 充填口
- 14 トップシール部
- 15 ノズル上端
- 16 易開封線
- 17 サイドシール部

40

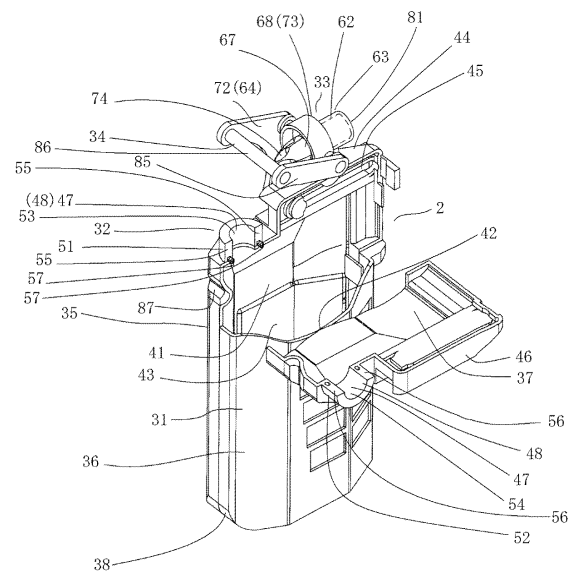
50

1 8	サイドシール部	
2 1	ノズル孔	
2 2	ノズル下端	
2 3	トップシール部	
2 4	シール後退部	
2 5	係止穴	
3 1	胴部	
3 2	ノズル保持部	
3 3	アダプター	
3 4	係止部材	10
3 5	胴部殻壁	
3 6	本体殻壁	
3 7	扉殻壁	
3 8	底殻壁	
4 1	出入口	
4 2	ヒンジ	
4 3	パウチ収容用空間	
4 4	掛け止め機構	
4 5	掛け止め片	
4 6	掛け止め片	20
4 7	ノズル保持面	
4 8	ノズル保持部材	
5 1	ノズル保持部材片	
5 2	ノズル保持部材片	
5 3	半割りノズル保持面	
5 4	半割りノズル保持面	
5 5	挟持面	
5 6	挟持面	
5 7	係止用ピン	
6 1	装着部	30
6 2	アダプター通液部	
6 3	注出案内内部	
6 4	リンク機構	
6 7	装着部内筒	
6 8	装着部外筒	
6 9	通液口	
7 1	天板	
7 2	リンク	
7 3	胴部	
7 4	通液孔（内筒）	40
8 1	弁筒	
8 2	注出案内筒	
8 3	液案内孔	
8 6	係止ロッド	
8 7	係止溝	
8 8	タブ	

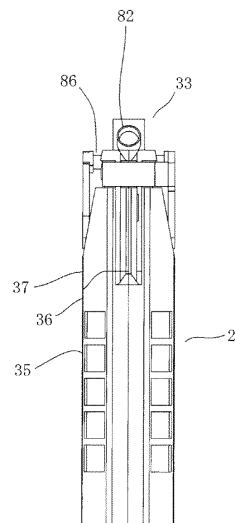
【図 1】



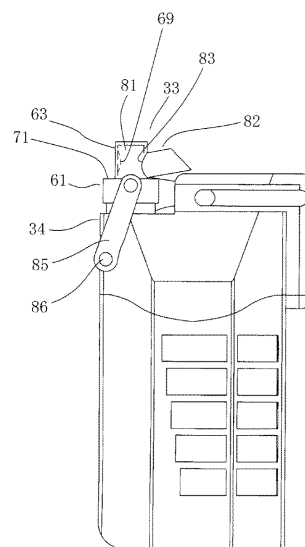
【図 2】



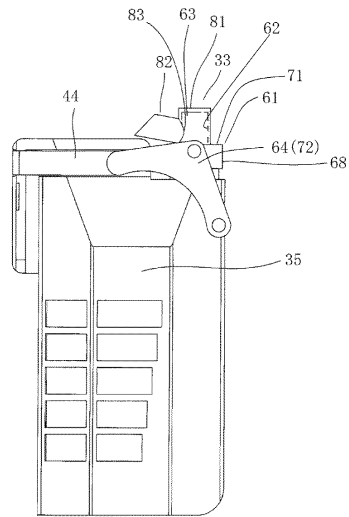
【図 3】



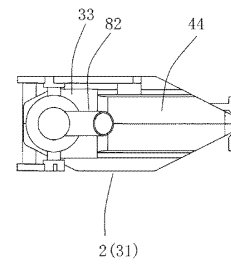
【図 4】



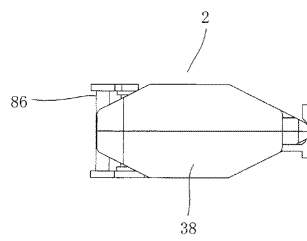
【図 5】



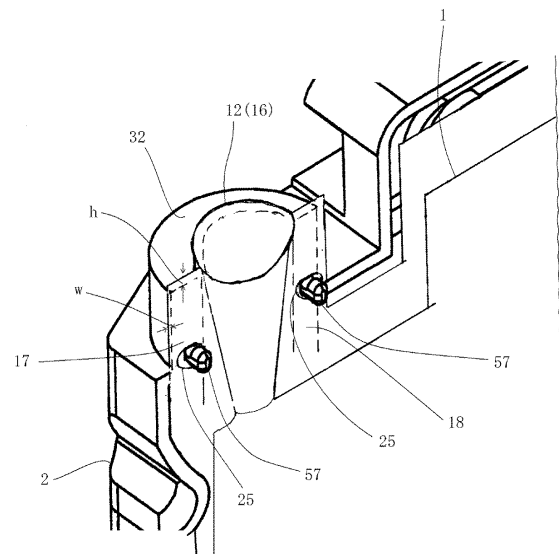
【図 6】



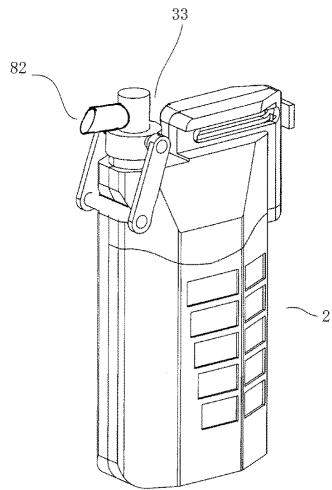
【図 7】



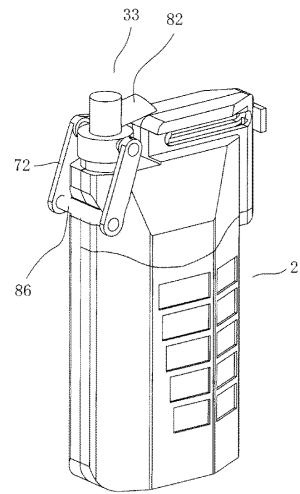
【図 8】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

審査官 八木 誠

(56)参考文献 特開 2 0 0 3 - 0 8 1 3 4 7 (J P , A)
特開平 0 6 - 0 9 2 3 7 0 (J P , A)
特開平 1 0 - 2 1 8 2 3 6 (J P , A)
実開昭 6 2 - 0 6 0 5 5 2 (J P , U)
特開 2 0 0 5 - 0 1 4 9 8 2 (J P , A)
特開平 1 1 - 2 9 2 1 7 1 (J P , A)
特開 2 0 0 0 - 0 4 3 9 0 1 (J P , A)
米国特許第 0 5 9 9 6 4 2 7 (U S , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
B 6 5 D 3 3 / 0 0 - 3 3 / 3 8、7 7 / 0 6